

## 研修報告書 No.18

県外病院臨床研修医

1 か月間、お世話になりました病院の先生方、職員の方、高知医療再生機構の皆様ありがとうございました。とても有意義な時間を過ごすことができました。

まず私なりに感じた高知の地域医療の状況について、私が研修させていただいた病院は市内から公共交通機関で3時間ほどかかる病院でした。近くにはいくつかの診療所はありますが、この病院が地域の医療の拠点になっていました。そして町役場から、保健に関わる行政のみが病院に併設されていました。行政と医療が物理的に近くにあることで、患者さんの家庭状況や介護申請を医療者が認識しやすくなり、退院先の検討をする場合にも早めに相談できる環境がありました。高齢者が多く、地域に根差した医療を提供することが医療に求められていると感じました。常勤の先生方や医療スタッフの方々は外来や入院を問わず、多くの患者さんの社会的背景を知っていました。地域に根差した医療の良さであり、大きな病院でもその姿勢の大切さは同じで、改めて認識することができました。高齢化が進んだ地域ならではの課題点としては、病院に受診する必要があるけれども、周囲に頼れる人がおらず、受診できない人がいるということです。認知症の夫婦だけで暮らしている家庭で、行政が定期的に訪問はするけれど、医療機関に受診させることができない、みてくれる家族や友人はおらず、どうすることもできない状況でした。しかしこれはこの町に限ったことではないと思います。私が普段研修している病院のまわりにもあるけれど、認知されていないだけで、むしろ行政が把握できていることが素晴らしいと思いました。大きな病院で研修しているだけでは学べない地域と行政と医療機関の関わりを身近に感じた1か月間でした。

研修内容では、週1回の外来をやらせて頂いたことと創傷処置が特に勉強になりました。外来をするのは初めてで、上級医の先生にバックアップについてもらいながら、検診や内科を診ました。緊急性はないけれどフォローが必要な人への対応、典型的な症状がない労作性狭心症の人におかしいと思い、大きな病院に紹介する判断力を学びました。上級医の先生方は隙間時間に研鑽をしながら日常診療に生かしており、また私より1年2年卒業が早いなだけの先生がとても優秀でその姿勢も刺激になりました。整形外科の先生が常勤していない日は骨折なども内科の先生が診療をし、MRIはないためレントゲンで圧迫骨折を診断する方法を知りました。当直帯ではCTや血液検査などは医師がやっており、普段医療スタッフの方や高度な検査に頼りっぱなしであることを反省しました。

この研修で得られたことは、医学に対して真摯に向き合う姿勢です。週1回画像を皆で共有して画像診断の力を養い、勉強することが習慣となっており、医療スタッフの方々も検査するだけでなく、ベッドサイドの情報を聞き知識をより深めようとしていました。また介護保険による行政が提供できるサービス、地域が抱える課題点を若い先生方も知っており、そ

の中で医療を提供していることを研修医の間に知ることができたのはよかったと思います。普段はソーシャルワーカーや上級医の間で行われていることを知ることができ、私がやらなければならないまわりになったときに役立つと思います。

人口が少なく、高齢化が進んだ町ならではの問題点とそれを解決しようとしている行政の取り組み、大学病院に求められているものとは違う地域に根差した医療を肌で感じることができました。患者さんと深く関わることの楽しさを知り、へき地医療と呼ばれたりもしますが、良い意味で印象が変わりました。今後専門に進んでこの研修で学んだことを大切にしていこうと思います。